MD(日本うつ病学会) CT(日本認知療法・ 認知行動療法学会) 合同企画[指定演題] プログラム

会長講演 海外招待講演 招待講演 シンポジウム1~4

オンサイト

会場でセッションにご参加いただけます(会場名を 記載しています)

ライブ ライ

ライブ配信を行います(配信日時を記載しています)

オンタイム

録画のオンタイム配信を行います(配信日時を記載しています)

オンデマンド

オンデマンド配信を行います: 配信期間は、2021年7月8日(木)~7月31日(土) ライブ配信したセッションは、準備が整い次第オン デマンド配信を開始します MD/CT合同企画会長講演

オンサイト ライブ オンデマンド

困難の先にある未来のために

2021年7月8日(木) 14:00~15:00

第1会場「301」

M/C-PL1 なかなか治らないうつにあきらめずに取り組む

 座
 長
 佐渡 充洋
 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

 演
 者
 渡邊 衛一郎
 杏林大学医学部精神神経科学教室

M/C-PL2 困難の先にある未来のために-マインドフルネス認知療法、認知行動療法の視点からみる困難との関わり方-

MD/CT合同海外招待講演

オンサイト オンタイム オンデマンド

M/C-ILE Precision Psychiatry

2021年7月8日(木) 19:40~20:40

精密精神医学

演者 Eduard Vieta Institute of Neuroscience Hospital Clinic, Univeristy of Barcelona,

IDIBAPS, CIBERSAM, Barcelona, Catalonia, Spain

MD/CT合同招待講演

オンサイト ライブ オンデマンド

2021年7月8日(木) 15:40~16:40

第1会場「301」

第1会場「301」

M/C-IL うつ病に対するリモート対話実践プログラムの有効性について

座 長 端詰 勝敬 東邦大学医療センター大森病院心療内科

演者斎藤環筑波大学医学医療系

MD/CT合同企画シンポジウム1

オンサイト | ライブ |

オンデマンド

脳画像から見るうつ病の回復過程

2021年7月8日(木) 9:20~11:00

第1会場「301」

オーガナイザー 三村 將 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

【趣旨・狙い】

うつ病に対して日本では現在、大きく薬物療法、精神療法(認知行動療法)、修正型電気けいれん療法、磁気刺激療法の4つの治療モダリテイが保険承認されている。いずれの治療モダリテイを用いた場合でも、うつ病は経過とともに、回復、不完全寛解、完全寛解へと進むことが期待されるが、一方で、改善に乏しい治療抵抗性うつ病が存在することもよく知られている。また、回復・寛解しても再燃・再発することも多い。近年では、このようなうつ病の回復過程に関する脳内変化をそれぞれの治療モダリテイごとに検討した研究が登場してきている。各治療モダリテイに共通した、あるいは特化したうつ病の脳内回復過程を見ることは、それぞれの治療が脳内でどのように働いているかを知るよすがとなるとともに、さらにうつ病の病態そのものを考えるうえでも大きな示唆を与えてくれる。

座 長 三村 將 慶應義塾大学医学部精神·神経科学教室

岡本 泰昌 広島大学大学院精神神経医科学

M/C-S1-1 脳画像から見るうつ病の回復過程:薬物療法

富岡 大 昭和大学横浜市北部病院メンタルケアセンター/昭和大学医学部精神医学講座

M/C-S1-2 脳画像から見るうつ病の回復過程:認知行動療法

横山 仁史 広島大学大学院精神神経医科学

M/C-S1-3 脳画像から見るうつ病の回復過程

平野 仁一 慶應義塾大学医学部精神神経科

M/C-S1-4 治療抵抗性うつ病における安静時機能的MRIを用いたrTMSの治療効果

小高 文聰 東京慈恵会医科大学精神医学講座/国立研究開発法人国立精神・

神経医療研究センター脳病態統合イメージングセンター

MD/CT合同企画シンポジウム2

オンサイト

ライブ

オンデマンド

リカバリーを目指した双極性障害の心理社会的介入を考える

2021年7月8日(木) 17:20~19:00

第1会場「301」

オーガナイザー 寺尾 岳 大分大学医学部精神神経医学講座

【趣旨・狙い】

本シンポジウムでは、双極性障害患者のリカバリーをサポートするためにどのような心理社会的介入が活用できるかを紹介したい。まずは、堀 輝先生から「運動とリカバリー」と題して、どのような運動をどの程度行うことでメンタルヘルスが改善し復職が促進されるか説明していただく。次に、平川博文先生から「光調整とリカバリー」と題して、光を遮断することで軽躁状態を改善するサングラス療法や、抑うつ状態を改善する光線療法を解説していただく。さらに、河野伸子先生から「心理療法とリカバリー」として、マインドフルネスや実存的アプローチを説明していただく。最後に、高江洲義和先生から「睡眠覚醒リズムとリカバリー」と題して、日々の起床時刻や就床時刻をどのように把握し、どのように調整していくかを薬物療法もまじえて解説していただく。多様な双極性障害患者の個別性を考慮しつつリカバリーが促進されるために役立つシンポジウムとしたい。

座 長 寺尾 岳 大分大学医学部精神神経医学講座

M/C-S2-1 双極性障害リカバリーにおける運動療法に対する期待

堀 輝 福岡大学医学部精神医学教室

M/C-S2-2 光調整療法とリカバリー

平川 博文 大分大学医学部精神神経医学講座

M/C-S2-3 心理療法とリカバリー

河野 伸子 大分大学福祉健康科学部/大分大学医学部精神神経医学講座

M/C-S2-4 睡眠・覚醒リズムとリカバリー

高江洲 義和 琉球大学大学院医学研究科精神病態医学講座

MD/CT合同企画シンポジウム3 難治性うつ病への最新の治療アプローチとは

オンサイト ライブ

オンデマンド

2021年7月9日(金) 11:20~13:00

第1会場「301」

オーガナイザー 坪井 貴嗣

杏林大学医学部精神神経科学教室

【趣旨・狙い】

座

うつ病がcommon diseaseと考えられるようになり久しいが、依然として診断や治療上の問題は多数残されており、 その1つに難治性うつ病の存在があげられる。難治性うつ病は標準的な抗うつ薬治療に反応しないものとして定義さ れることが多いが、一方で、見かけ上の難治性うつ病とされる診断・治療上のエラーが認められるのも事実である。 本シンポジウムではまずこの点について考察し、その上で真の難治性うつ病に対し臨床上有用な可能性のある認知 行動療法、経頭蓋磁気刺激法、電気けいれん療法、そしてケタミンを含めた新たな薬物療法について各治療法の最 新の知見や専門家の考えをご講演いただく。医療者と当事者を苦しめるこの難治性うつ病という病態に対し、未来 を見据えられるシンポジウムになればと思い、全力で取り組みたい。

長 坪井 貴嗣 杏林大学医学部精神神経科学教室

> 櫻井 準 杏林大学医学部精神神経科学教室

M/C-S3-1 難治性うつ病の診断・治療上の問題点

> 坪井 貴嗣 杏林大学医学部精神神経科学教室

M/C-S3-2 難治性うつ病に対する認知行動療法

> 中川敦夫 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室/慶應義塾大学病院臨床研究推進センター

M/C-S3-3 治療抵抗性うつ病へのrTMS療法

鬼頭 伸輔 国立精神・神経医療研究センター/東京慈恵会医科大学精神医学講座

M/C-S3-4 難治性うつ病に対する電気けいれん療法

安田 和幸 山梨大学医学部精神神経医学講座

M/C-S3-5 治療抵抗性うつ病への新たな薬剤治療

櫻井 準 杏林大学医学部精神神経科学教室

MD/CT合同企画シンポジウム4

オンサイト

オンデマンド

薬物療法が有効な群と精神療法が有効な群との違い

2021年7月9日(金) 18:20~20:00

第1会場「301」

オーガナイザー 古川 壽亮

京都大学大学院医学研究科健康增進:行動学分野

【趣旨・狙い】

うつ病の急性期治療において、抗うつ剤と精神療法はほぼ同等の効果を有する。その効果の大きさは標準化平均 差standardized mean differenceにして0.3程度、プラセボに対する反応率を40%とすれば治療群での反応率が 50%に増加する程度の大きさである。

しかし、患者によってより抗うつ剤が適応である人、逆に精神療法が適応である人、あるいはさらに両者の併用が 好ましい人がいることを、治療者は経験的に知っている。この適応の違いを系統的に明らかにし、応用することで、 患者群全体として治療反応率を改善することが可能であるはずである。

薬物療法と精神療法の適応の違いを明らかにするために、臨床試験の個人データを集積しメタアナリシスする、個 人データメタアナリシスが最近盛んに行われるようになってきた。本シンポジウムでは、これらの世界の再先端の 研究を原著者に披露していただく。講演には日本語字幕がつき、質疑応答は日本語で大丈夫ですので、ふるってご 聴講下さい。

座 長

古川壽亮

京都大学大学院医学研究科健康增進·行動学分野

M/C-S4-1 Which patients benefit from adding short-term psychodynamic psychotherapy to antidepressants in the treatment of depression? A systematic review and meta-analysis of individual participant data.

Fllen Driessen

Department of Clinical Psychology, Behavioural Science Institute, Radboud University, and Depression Expertise Centre, Pro Persona

Mental Health Care, Nijmegen, Netherlands

M/C-S4-2 Symptom-Specific Assessment of Treatment Efficacy: The Potential of Network Estimations.

Lynn Boschloo

VU University in Amsterdam, Department of Clinical, Neuro and

Developmental Psychology

M/C-S4-3 The Past, Present, and Future of Mental Health Treatment Personalization

> Zachary Cohen University of California, Los Angeles

M/C-S4-4 慢性うつ病に対するCBASP vs 抗うつ薬 vs 両者の併用

> 古川壽亮 京都大学大学院医学研究科健康增進·行動学分野